

2005 年

軽防協ニュース速報 NO. 2

2005年第2四半期（4月－6月）の伝染病発生状況についての報告

(International Collating Center からの情報)

2005 年 8 月 11 日

アルゼンチン

馬ヘルペスウイルス

EHV-1 の流産型

5 月 31 日に 1 頭の発生が確認された。確定診断は Instituto de Virologia CICyA INTA, Castelar において、ウイルス分離と PCR 検査により行われた。また、1 地域において小規模な流行が起こり、20 頭のサラブレッド種の妊娠馬に流産が確認された。その中には、ワクチンを 2 回接種されていた牝馬もいた。

オーストラリア

報告未着。

カナダ

報告事項なし。

デンマーク

報告事項なし。

フランス

馬伝染性貧血

4 月 1 日、フランス中央部のウールエロアール県 Barjouville 地区の乗馬センター在きゅう馬 22 頭のうち、10 歳の牝馬 1 頭が、コギンズテストにより陽性と診断された。また、さらなる調査により、16 歳のフランストロッター種のせん馬とアラブ種の牝馬の 2 頭の陽性が

確認された。いずれの感染馬も安楽死処置がとられた。疫学調査は Luisant と Leves と Bouglainval にある他の4つの乗馬センターにおいても行われたが、現在までのところ陽性馬は確認されていない。

馬インフルエンザ

イブリーヌのサラブレッド種とドルドーニュのポニーに発生が確認された。確定診断は鼻粘膜スワブのELISA検査により行われた。

また、オアーズのサラブレッド種、エソンヌの Trotter とポニー、ノール、セーヌエマルヌ、エソンヌのサドラー種の馬についても、血清学的検査により感染が確認されている。

馬ヘルペスウイルス

EHV の呼吸器型

以下の発生（品種ならびに県）が確認された。確定診断は血清学的検査によって行われた。

サラブレッド種

ブーシュデュローヌ、イルエヴィレーヌ、メーヌエロワール、オアーズ（9きゅう舎）、ピレネーアトランティック、サルト（2頭）、イブリーヌ（4頭）、ヴァルドワーズ。

Trotter 種

メーヌエロワール（4きゅう舎）、ヴァンデ、エソンヌ、ヴァルドマルヌ。

サドラー種

アン（2きゅう舎）、コートドール、コートダルモール、ジロンド、イルエヴィレーヌ、ロットエガロンヌ、マンシュ（2頭）、ノール、オアーズ（2頭）、セーヌエマルヌ、イブリーヌ（2頭）、ヴァンデ、エソンヌ（2頭）、ヴァルドワーズ。

ポニー種

メーヌエロワール、オアーズ、エソンヌ。

その他の品種

エーヌ、コートダルモール、メーヌエロワール、オアーズ、ピレネーアトランティック、イブリーヌ。

非特異性ミオグロビン尿症

アリエージュ、ピュイドドーム、オートマルヌ、オルヌ、セーヌエマルヌ、ヴォージュ、ソナムの各県における異なる8つの施設において発生が確認された。擬似症例は15頭であり、これによる死亡馬は9頭であった。

ピロプラズマ病

南フランスで風土病として存在している。

ドイツ

馬ヘルペスウイルス

EHV-1 の流産型

5月11日に1頭の発生が確認された。ワクチン接種歴は不明である。確定診断はLeipzig大学において、胎子組織を用いた免疫蛍光法、PCR、RFLP（制限酵素切断パターン）の各検査により行われた。この施設においては、これ以外の流産発生は確認されていない。

香港

報告事項なし。

アイルランド共和国

サルモネラ感染症

レンスター地方において3頭の発生が確認された。

腺疫

20施設28頭（レンスター地方13頭、マンスター地方10頭、コノート地方1頭、アルスター地方4頭）の発生が確認された。確定診断は菌分離によって行われた。

EHV-1 の流産型

32頭の流産および死産が確認された。6つの州の9つの施設においては複数の発生が確認されている。発症牝馬の多くはワクチン未接種であった。神経型の発生は確認されていない。

イタリア

ピロプラズマ病

中央イタリア南部で風土病として存在している。

日本

馬ヘルペスウイルス

EHV-1 の流産型

3 施設 4 頭のサラブレッド種および非サラブレッド種の馬の流産発生が確認された。初発は 4 月 13 日であり、最終発生は 5 月 13 日であった。これらは北海道日高家畜保健衛生所と北海道釧路家畜保健衛生所においてウイルス分離により確定診断された。このうち 3 頭はワクチン未接種であった。

EHV-1 の呼吸器型

5 月 25 日に 1 頭のサラブレッド競走馬における発生が確認された。確定診断は JRA 競走馬総合研究所栃木支所における血清診断により行われた。ワクチンは未接種であった。

馬伝染性子宮炎

5 月 16 日に 1 頭のサラブレッド種繁殖牝馬における発生が確認された。確定診断は JRA 競走馬総合研究所栃木支所における PCR 検査により行われた。

破傷風

6 月 6 日に 1 頭の非サラブレッド種の馬における発生が確認された。北海道日高家畜保健衛生所において臨床症状により確定診断された。ワクチン未接種であった。

ニュージーランド

報告事項なし。

南アフリカ

腺疫

4 月にハウテン州において 1 頭の発生が確認された。菌分離と臨床症状により確定診断がなされた。

馬ピロプラズマ病

4 月に *Theileria equi* と *Babesia caballi* の感染による発生が確認された。クワズール・ナタール州における小規模の発生であった。一部の症例は臨床症状により診断されたものである。発生頭数は不明である。

馬脳症

4 月に西ケープ州、Portervill の子馬に発生。同馬は死亡した。当初アフリカ馬疫を疑われていたが、ウイルス分離と臨床症状により確定診断がなされた。なお、この牧場では、数頭の馬に感染が確認されている。

*注釈

馬脳症ウイルス Equine Encephaloses Virus(EEV)は、オルビウイルスに属し、アフリカ各国での発生が確認されている。南アフリカの馬は、抗体保有率が高く、成馬では80%である。ほとんどは不顕性感染であるが、発熱や眼窩上浮腫を呈す馬もあり、臨床上アフリカ馬疫と混同されることがある。

アフリカ馬疫

発生は1月から4月まで続いている。これまで、血清型1、2、5、6、7のウイルスが分離された。広範囲かつ症状が重い発生が、用途、品種、ワクチン接種の有無、年齢を問わず980頭に起こっている。最初の発生は1月であったが、3月と4月が最も多く発生している。主な発生は下記のとおりである。

以下の州から報告があった

- クワズール・ナタール州：535頭に発生。361頭死亡。
Natal Midlands（主に血清型5の感染が確認）
Dundee 地方（血清型7の感染が確認）
- ハウテン州：42頭死亡（血清型1,5,6の感染が確認）
- 東ケープ州：33頭死亡（血清型2の感染が確認）
- リンポポ州：2頭死亡（血清型1の感染が確認）
- 北西州：3頭死亡
- ムプマランガ州：2頭死亡
- 西ケープ州：2頭死亡（血清型5の感染が確認）

西ケープ州の発生は東ケープ州との州境に近い東側であり、西ケープ州内にあるアフリカ馬疫緩衝地帯（AHS control zone）とは約300km離れている。

スペイン

報告未着。

スウェーデン

腺疫

Swedish Trotting Associationの報告によると、腺疫は風土病として本四半期も発生し続けており、症状は様々である。12の異なる施設で多数のサラブレッド種および非サラブレッド種の競技馬や繁殖馬についての発生が確認されている。

馬インフルエンザ

限局的な発生が確認されており、その症状はいずれも軽度である。異なる6つの施設で発生しており、頭数は不明である。

馬ヘルペスウイルス

EHV の神経型

1 部の地域で限局的な発生が確認された。感染馬はサラブレッド種であり、確定診断は血清学的検査によって行われた。

スイス

エレキア症

5 月と 6 月に異なる 2 施設で 2 頭の発生が確認された。品種は不明で、確定診断は血清学的検査によって行われた。

馬ヘルペスウイルス

EHV-1 の神経型

5 月と 6 月に、限局的ではあったが、重症例の発生が確認された。2 施設で 2 頭の非サラブレッド種の馬 2 頭とロバ 2 頭に発生した。いずれもワクチン未接種であった。6 歳のアングロアラブ種の牝馬は、両後肢の麻痺により 36 時間の横臥と膀胱麻痺を呈した。補体結合反応による EHV1/4 に対する抗体価は 1:80 から 1:320 へと上昇した。DMSO や非ステロイド系抗炎症剤などの投与により 3 週間程度で臨床症状の改善が見られたものの、後肢の障害と膀胱麻痺は残っている。この数日前に、同じ施設のポニーが起立不能に陥り、安楽死処置がとられたが、その発生に関する追跡調査等は実施されなかった。

EHV-1 の新生子馬感染

出産まもなくの虚弱ロバが安楽死された。別の子馬もその数日前に死亡したが検査はされていない。

EHV-4 の呼吸器型

5 月に 3 施設において限局的な発生が確認された。発生頭数は不明である。

馬ピロプラズマ病

7 施設において 7 頭の限局的な発生が確認された。確定診断は血清学的検査によって行われた。5 頭は *Babesia caballi* の感染であり、2 頭は *Theileria equi* の感染であった。

腺疫

4 施設において限局的な発生が確認された。頭数は不明である。

トルコ

馬ピロプラズマ病

4月15日。1施設3頭（サラブレッド種と非サラブレッド種）の限局的かつ軽度な発生が確認された。トルコ-イスタンブール・ジョッキークラブ競走馬診療所検査部において診断され、確定診断は虫体分離、臨床症状、血清学的検査、血液検査、生化学的検査によって行われた。

さらに、1施設70頭のサラブレッド種において発生が確認された。確定診断は、4月19日にトルコ-karacabey ペンションスタッド牧場の検査所において、血清学的検査、虫体分離、臨床症状、血液検査、生化学的検査によって行われた。ダニの駆除は継続されている。

アラブ首長国連邦

馬ピロプラズマ病

本四半期は *Theileria equi* および *Babesia caballi* が散発的に発生した。

サルモネラ感染症

発生は確認されているが、血清型は不明である。

イギリス

馬ヘルペスウイルス

EHV-1 の流産型

4月、East Anglia のきゅう舎で1頭の発生が確認された。本場はワクチン接種済であった。同じきゅう舎において他馬の発生は認められなかった。

4月と5月にシュロップシャー州のきゅう舎で発生が確認された。2頭の胎子は Animal Health Trust (AHT) において検査を受け、確定診断はウイルス分離、PCR 検査により行われた。Horserace Betting Levy Board (HBLB) の実施規則に基づく防疫措置により、発生は終息し、以後の発生は認められなかった。同じ施設においては、本シーズンの初めに2頭の流産と2頭の生後直死が発生していた。その時には検査を実施しなかったが、後に EHV 感染と判明した。

また、5月には、オックスフォードシャー州で1頭の発生が確認されている。

EHV-1 の神経型

4月、スタフォード州のサラブレッド種の12歳のせん馬が急性かつ重度の運動失調を呈した。同馬はワクチン未接種であった。ペア血清による抗体上昇が確認されたもので、

鼻腔スワブからウイルスは分離されなかった。同馬はコルチコステロイド投与により治癒した。接触した他馬に感染した様子は見られなかった。

EHV-1 の呼吸器型

6月、肺炎に罹った9週齢の子馬がオックスフォードシャー州で死亡した。確定診断は肺組織のPCR検査により行われた。

馬媾疹

6月、EHV-3感染による馬媾疹の発生が確認された。ウォリックシャー州の1頭の牝馬については、外陰部の症状と高い中和抗体価によって診断されたものである。ウエストヨークシャー州のきゅう舎においては、オランダから輸入されたアンダルシヤンの種牡馬の陰茎部よりウイルスが分離された。また、同馬には中和抗体価の上昇も確認された。この種牡馬と最近交配した牝馬2頭も臨床症状を呈した。アバディーン地方のウエルシュポニー種の牝馬は、交配後まもなく外陰部に症状を呈した。確定診断は症状と中和抗体価の高さによってなされた。同馬に接触した可能性がある6頭の馬についての感染は否定されている。

EHV-4 の流産型

4月、ウースター州のサフォークパンチ Suffolk Punch 種の牝馬での流産発生が確認された。妊娠約10ヶ月であった。PCR検査により、胎子組織からEHV-4陽性反応が確認された。他の発生は確認されていない。

アメリカ合衆国

馬ヘルペスウイルス

EHV-1 の神経型

4月と5月、メリーランド州の大規模のきゅう舎において発生が確認された。その多くについて、安楽死処置がとられた。

5月にはケンタッキー州のチャーチルダウンズ競馬場における3つのきゅう舎のサラブレッド競走馬に発生が確認された。そのうち3頭は、安楽死処置がとられた。検体は家畜疾病診断センターとMaxwell H. Gluck Equine Research Centerに送られ、確定診断され、それらのきゅう舎の馬については州獣医官の検疫監視下におかれた。6月16日現在、全ての馬について陰性の診断結果が下されたことにより、検疫隔離措置は解除されている。

水胞性口炎

4月末から6月末にかけて、New Jersey型による発生が確認された。ニューメキシコ州の2地方、アリゾナ州の5地方、テキサス州の1地方、ユタ州の2地方において発生している。

東部馬脳炎

フロリダ州において50頭を超える発生が確認されている。ほとんどの症例は5月1日以降に州中央部において発生している。